

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	62人	国語B	62人
② 算数A	62人	算数B	62人

5 留意事項

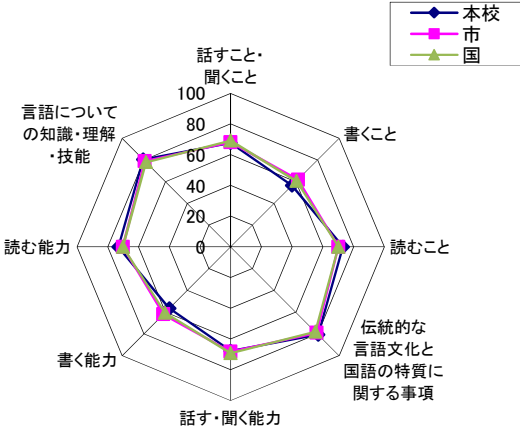
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

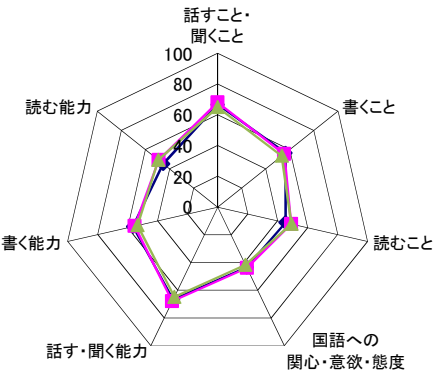
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	67.7	68.2	69.2
	書くこと	56.5	62.0	60.6
	読むこと	73.1	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.6	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	67.7	68.2	69.2
	書く能力	56.5	62.0	60.6
	読む能力	73.1	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	80.6	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	68.0	64.9
	書くこと	56.5	55.3	53.4
	読むこと	45.2	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	43.5	43.9	41.7
	話す・聞く能力	66.7	68.0	64.9
	書く能力	56.5	55.3	53.4
	読む能力	45.2	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

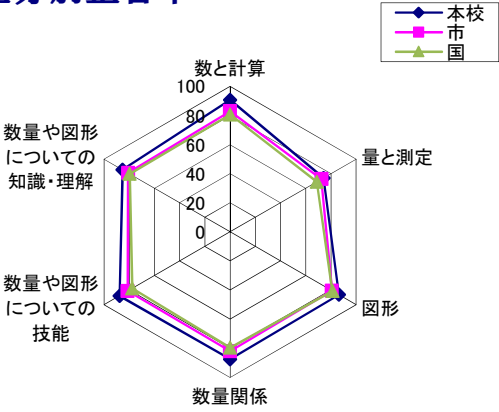
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語A67.7%, 国語B66.7%と市の平均正答率とほぼ同程度である。場に応じた適切な言葉づかいで話すことのできる児童が多くみられる。 ●話し手の意図を的確に捉えたり、進行に沿った話し合いの内容を理解したりすることが苦手の児童が見られた。	・各教科や学級活動等を通して、グループで話し合ったことをもとに、考えの共通点や相違点を整理しながら、メモを活用した話し合いの場を意図的に設定していく。
書くこと	○国語Aは56.5%と市の平均正答率62.0%を下回ったが、国語Bは56.5%と市の平均正答率55.3%を1.2ポイント上回った。目的や意図に応じて文章の構成を考えたり、引用して書いたりする問題の正答率が高かった。 ●基本的な手紙の構成を理解していない児童が見られた。	・様々な場面で礼状を書く際に、手紙の基本的な構成や形式がもつ意味にも触れながら指導し、定着を図る。自分の考えを明確に伝えるようにするためには、根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることができるよう指導する。
読むこと	○国語Aは73.1%と市の平均正答率70.2%を2.9ポイント上回っている。特に俳句の情景を捉える問題の正答率が高い。俳句の情景を想像しながら読み取れる児童が多いことが伺える。 ●相手の発言を聞き、意図を理解したり、広げたりすることが苦手の児童が見られる。	・自分の考えと相手の考えの共通点や相違点を意識しながら、感想を伝え合う場面を設定する。また、読書をした後に意見を交流する機会を設け、自分と他者の考えを比較したり結び付けたりする活動を通して、考えを深められるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは80.6%と市の平均正答率79.1%を1.5ポイント上回っている。ことわざの意味や正しい漢字の書き方、読み方を理解することができている児童が多い。 ●古文を読むことに慣れていないため、独特のリズムや響きの良さに気づくことができない児童が見られた。	・古典作品に触れる機会を設け、音読や暗唱を取り入れながら、独特のリズムや響きの良さを実感できるようにしていく。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

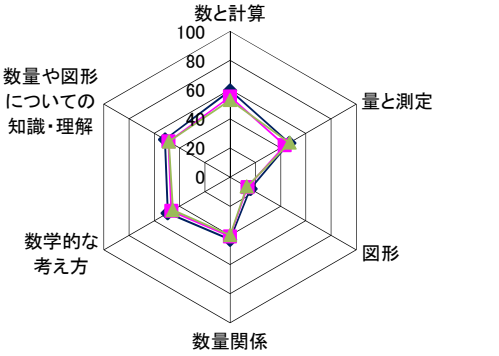
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	90.7	82.9	80.6
	量と測定	74.2	72.5	68.8
	図形	86.3	80.8	81.1
	数量関係	87.4	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	87.7	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	85.3	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.4	55.1	52.8
	量と測定	46.8	43.4	47.0
	図形	16.1	13.8	13.2
	数量関係	42.9	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	49.5	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	51.6	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、算数Aでは90.7%で市の平均正答率82.9%より7.8ポイント、算数Bでは59.4%と市の平均正答率55.1%より4.3ポイント高い。 ○整数の四則計算の基礎的な技能が身に付いている児童が多く、どの設問においても市の平均正答率を6～12ポイント近く上回っている。 ●整数と小数の混合した計算では、理解が十分でない児童がいる。 ●問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す問題の正答率は80.6%と本校の平均正答率の中では比較的低い。1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解できていない児童が見られた。	・基本的な計算問題を解く力はよく身に付いているが、整数と小数の混合した計算になると正答率がやや下がる傾向がある。今後も少人数指導や習熟度別学習の内容を充実させ、類似問題や応用問題に繰り返し取り組ませることで、学力の定着を図っていく。 ・問題場面から数量の対応関係を大小関係を数直線上に表したり、数直線上の基準量に当たる「1」に対応する数量を問題場面から確かめたりする活動を充実させる。
量と測定	○平均正答率は、算数Aでは74.2%と市の平均正答率72.5%より1.7ポイント、算数Bでは46.8%と市の平均正答率43.4%より3.4ポイント高い。 ●示された平行四辺形の半分の面積の三角形を選択する問題では正答率は72.6%であり、向きや形に依存してしまい、一つしか選ぶことができない児童が多かった。	・2つの合同な三角形を合成してできた平行四辺形の面積を求めたり、平行四辺形を対角線で分割した2つの合同な三角形の面積を求めたりする活動を充実させる。
図形	○平均正答率は、算数Aでは86.3%と市の平均正答率80.8%より5.5ポイント、算数Bでは16.1%と市の平均正答率13.8%より2.3ポイント高い。 ●正五角形は5つの合同な二等辺三角形で構成できることを問う設問では、設問の意味を十分に理解できていない児童が見られた。	・提示された情報を整理し筋道を立てて考える問題は、苦手意識をもつ児童が多く見られるので、場面を段階的に提示し、十分に理解できるよう指導の工夫をしていく。
数量関係	○平均正答率は、算数Aでは87.4%と市の平均正答率81.9%より5.5ポイント上回っている。算数Bでは42.9%と市の平均正答率40.8%より2.1ポイント高い。 ●二次元表に分類整理し、合計欄に当てはまる数字を求める問題では、正答率が72.6%と相当数の児童が回答できているが、無回答の児童が4.8%いた。合計欄の意味を十分理解していない児童が見られた。	・資料を二次元表に分類整理する際、「正」の字を書いて調べることで、落ちや重なりがないようにできることなど、資料の整理の仕方について確認する活動する場を設け、習熟を図る。 ・実際に資料から二次元表を作成する活動を通して資料の数と二次元表の合計欄の数が同じになることを確認する活動を徹底していく。また、他の問題に比べて無回答の児童が多くみられるので、個別指導の充実を図っていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」の肯定割合が高い。引き続き問題解決的な学習や体験的な学習を充実させ、「自ら学び考える」学習の仕方を示しながら、個人に応じたチャレンジの場を設定し、新しい課題、より難易度の高い課題への意欲を高めていきたい。

○「将来の夢や目標を持っている。」の肯定割合は96%と高い。夢や目標の実現に向けて学習することや、集団で協力し合うことの大切さを指導していきたい。

○「5年生までに受けた授業の最後に学習内容の振り返りをよく行っていたか。」については肯定割合が85%を超えたが、「どちらかといえば当てはまる。」にとどまっている児童が多い。引き続き、「明確なねらい」とともに「児童が意識できる振り返り」を充実させ、「分かった。」「できた。」など成長の自覚ができるよう促していきたい。

●「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか。」について、難しいと思う児童の割合が県・全国平均よりも高い。自分の考えをノートにまとめる活動や、理由・根拠を明らかにして発表する活動を低学年から積み重ねていくようにしたい。

●「家で、学校の授業の予習をしているか。」の肯定割合が37%にとどまり、県・全国平均と比較しても低い。学習塾での先取り学習はあっても、自力での予習は難しい。家庭での自主学習における復習・予習の内容や課題設定について具体的に示しながら、家庭とも共通理解を図り、取り組みを促していきたい。

●「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか。」の肯定割合は50%を下回り、県・全国平均と比較して10ポイント以上低い。身近なところでのボランティアへの認識が浅いためと思われる。今後、自分たちにもできるボランティア活動への意識を高めていきたい。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語における、読む力・表現する力の育成	学校課題として「根拠をもった正確な読み取り」に重点を置き、さらに言語活動を通じて様々な考え方と出会う中で読みを深めていけるように、読みの交流を位置付けた授業の研究に取り組んでいる。	国語Aでは、「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」が市・国平均を3ポイント程度上回った。一方、国語Bの「読むこと」は市・国平均を4ポイント程度下回り、読み取ったことをもとに考えを広げたり、他の考えや意図をとらえたりすることに課題が見られる。
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。	算数A・Bともにすべての領域で市・国平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを説明する活動、書く活動への苦手意識をもつ児童の割合が6割を超えている。	言語活動と、考えを書いてまとめる活動の重視	年間の指導内容から課題に関わるものの分析を行い、新学習指導要領に示される観点に沿って育てたい資質・能力を系統立てて明確にしながら、重点的に取り組むべき内容の時間の割り振りや指導方法の検討・改善を行う。